

[ここに入力]

題字の写真は、殿ヶ谷戸庭園入り口にある箱庭です。今見ることができる植物とその名前があるので興味を惹かれます。NHK 朝ドラで日本の植物学の父と言われる牧野富太郎の物語を放送しています。毎回植物が紹介されるので楽しみです。

# 紅葉台



# 新聞

第84号

2023年  
7月1日

発行人：関谷 孝

## 紅葉台 シニア散歩 殿ヶ谷戸庭園

連休明けの5月9日(火)。爽やかな晴天。シニア散歩は毎月初めの火曜日が恒例です。今回は、国分寺駅近くの殿ヶ谷戸庭園。武蔵野の山野草と湧水の庭で有名です。都立文化財9庭園の一つにもなっています。名前の由来は、昔国分寺村殿ヶ谷戸という地名からです。皆さんも一度は行ったことがあることでしょうか。

そもそもこの地は、南満州鉄道副総裁の江口定條(さだえ)の別荘で「随宜園(ずいぎえん)」と言われました。その後、三菱合資会社取締役の岩崎彦彌太(ひこやた)が買い取り、和洋折衷の木造母屋に建て替えました。庭園建築として、紅葉亭や湧水を利用した回遊式庭園を造りました。武蔵野は、国分寺崖線と呼ばれる礫層から進出する湧水があります。それを利用した次郎弁天池や



鹿威しがあります。水が流れると竹がコンと鳴る音は、イノシシやシカを追い払うためです。また、都内には珍しい孟宗竹の竹林がありました。園内は、よく整備されていて、四季折々の花が見られます。今回はタマノカンアオイや苔、藤などが見頃でした。庭園の入り口に今見ることが出来る草花を箱庭にして展示してあります。写真で見ると紅葉の秋は一段と美しいようなので、秋にもお勧めです。

本館は資料展示室になっているので詳しく知りたい方は、見学することをお勧めします。お昼は、紅葉亭近くの芝にシートを広げ皆さんでお弁当を食べました。他にも同じようなシニアの団体も来ていました。聞くとなんと埼玉県から来たとか。この庭園は住民の方が運動をして残された貴重な庭園で今では国の名勝に指定されています。最近、神宮外苑の樹木を守ろうと新たな市民運動が話題になっています。国民の憩いの場が開発によって失われないように、未来の財産として残していきたいものです。木は何年もかけて大きくなります。一瞬で切っ



てしまったら取り返しがつかないことになります。殿ヶ谷戸公園の歴史が物語っていますね。坂本龍一さんの最後の手紙に込められた思いを繋げていきたいと強く思いました。

【文責 関谷】

## 「住吉神社」の算額

関 邦義



この新聞の発行人でもある関谷さんに勧められて、この度「カワセミ会(探鳥会)」に入会することになった。主として私が参加するのは、湯殿川沿いの月例探鳥会だが、集合場所が片倉城跡公園になっている。その城跡公園の

山の中腹に住吉神社があるのはご存知の方も多いと思うが、神社の本殿正面右横に算額が掲げられていることに気づいている人は意外に少ないようだ。

この算額は、嘉永4年(1851)に、地元川幡元右衛門泰吉およびその門人5名によって奉納されたものに由来する。由来するというのは、元の算額は、長年風雨に晒され墨で書かれた字は消えかかっていたようで、現在のものは、それを私の元職場の先輩で書道家でもある松川忠雄氏が書写し、復元したものであるからだ。

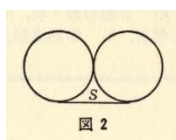
ところで「算額」だが、主に江戸時代の中期(寛文年間)の頃から始まった風習で、和算家が神社仏閣に奉納した数学の額や絵馬のことを言う。種類としては、おおよそ次の三種に分類される。

①和算家が数学の問題を書いて奉納したもの。どうやら、数学の問題が解けたことを神仏に感謝し、いっそう勉学に励むことを祈願して奉納されたようだ。したがって、これには解答もついている。

②次に、多くの人が集まりやすい神社仏閣を発表の場として、問題だけを書いて解答をつけずに奉納したもの。

③②の問題を見た他の和算家が、見事解答したものを算額にしてまた奉納したもの。これは、特に「額面題」と言われる。

これでいうと、住吉神社にあるものは①に該当するだろう。算額は、全国に900~1,000面ほどが現存しており、中には文化財に指定されたものもあるようだ。それで、住吉神社の算額の問題についてだが、全部で4問ある。紙幅の都合上、そのうちの第1問だけ紹介させていただく。原文は次の通りである。



「如図有空責(積)/問等円径/答云等円径若干。これを分かりやすく現代文になおすと「図(2)のように、互いに外接する2つの等円と、その共通接線によって囲まれた部分の面積をS(空積)とすれば、等円の直径はいくらになるか」。当時の「術文(解答の仕方)」がついているが、現代人には分かりにくいので、一応、現代的解答だけ下に載せさせていただく。詳しくは『多摩の算額』(研成社:佐藤健一著)をご参照いただきたい。八王子中央図書館で借り出し可能。

今からみても、かなり高度な問題であることが、数学が苦手な私にも理解される。このことから当時の和算のレベルは決して西洋の数学に劣らなかったことが推測される。算額の写真には「関流」という文字が認められるが、これはもちろん和算の大家関孝和(せき たかかず)を祖とする流派のことである。残念ながら、筆者とは何の関係もない。

実は、この算額奉納の習慣があったことで、明治になってからの洋学の導入が、比較的スムーズに行われたと言われている。城址公園に行く機会があったら、是非住吉神社の算額もご覧になることをお勧めしたい。

$$2r = \frac{\sqrt{2S(1-\frac{\pi}{4})}}{1-\frac{\pi}{4}}$$

＜現代的解答＞

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。